

2019ミスノ旗杯秋季大会

佐倉V2



昨秋に続き連覇を果たした佐倉

日本リトルシニア中学硬式野球協会 関東連盟 シニア 情報 毎月第2・4水曜掲載

「2019ミスノ旗杯関東連盟秋季大会」(秋季関東大会)が4日で全日程を終了、佐倉が昨秋に続いて連覇を果たした。決勝では佐倉がソツのない野球を披露し、浜松南を4-10で下した。3位決定戦は静岡梶野が久喜を2-10で制した。ベスト8以上は来春の全国選抜大会への関東連盟からの推薦を決めた。

佐倉が「強さ」を見せて浜松南を押し切った。決勝の初回、四球で出た走者が盗塁、犠打で三塁に進み、4番及川の内野安打であっさり先制。2回は内野安打で出た走者を8番堀井が左中間に三塁打を放ってかえす。大技、小技織り交ぜての攻撃で流れをつかんだ。投げては、大会最優秀選手賞に輝いた先発の美濃川が浜松南打線に付け入るスパンを与えない。6回まで散発の4安打の好投を見せ

初決勝に手心え

敗れたものの、チームとして初めて決勝に進み、2位となった浜松南の鈴木彰宏監督は「選手はよく頑張った」と思い、上出来で「すね」と選手たちをほめた。決勝の佐倉には、なすすべなく敗れたが、それまでの戦いはよかった。3回戦成田と強豪を下し、準々決勝では横濱東金沢を鮮やかな集中攻撃で破った。静岡決勝では1-2の6回裏に3安打で2点を奪って逆転した。

「春が大変楽しみ」

藤田駿斗主将は「佐倉は何ごととも徹底していて、差が大きいと感じました。来年までに1人1人が意識を高めない」と話した。鈴木監督も「みんないい経験をしたと思う。春は大きなチャンスなので、いい準備をしたい」と、来春を見据えていた。

銅メダルよかった

静岡梶野 3位決定戦を制し、松川良監督は「選手たちがよく成長した2カ月間でよかった」と笑顔もあらえてよかった」と笑顔をのぞいた。先発が2回投げた後は1回ずつ投手を交代え、6人の継投で久喜を完封。「チャンスを与えたかった。みんな投げ切ってくれた」と話した。南関東支部大会では2回戦でまさかの敗退を喫し、敗者復活戦で勝ち上がって支部最後の代表となった。森田光希主将は「5年連続の秋ベスト4でよかった。支部大会で負けて週3回の平日練習もして、チームが1つになってきた」と振り返った。

先発美濃川 MVP

子安秀弥主将は「優勝できてよかったけど、まだうちの野球ができないこともあった」と振り返った。2回戦は大勝したが、3回戦では千葉西に1-4とリードされて終盤に逆転。準々決勝では今夏の日本選手権王者の浦和にリードしては追いつかれる展開をタイプリーグで7-6で振り切るなど、苦しい試合を乗り切ってきた。「平日のナイター練習と

加藤遥喜が敢闘賞

今年の大会から個人表彰が行われた。最優秀選手賞に美濃川湊(佐倉)、敢闘賞には浜松南の女子選手、加藤遥喜が選ばれた。15

あと一本が出ない

北関東支部対決で久喜に屈した。0-2の最終回に同点に追いつき、タイブレークへ。しかし、8回表に大量5点を失い、2-17で敗れた。野雅哉主将は「大きなミスはなかったが、完敗だった。あと一本が出ないことが力不足だった」と振り返った。宮澤幸喜監督は「最終回、よく追いつくことができたが、勝ち越せずにはタイブレークで敗れたのが力の差」と、春の雪辱を目標にする。

5、6回大量失点

静岡梶野と4回まで0-0の競り合いだったが、5回に先発二ノ宮の制球が突然乱れて4失点。6回にも5点を失ってコールド負けした。和田義盛監督は「1年生バッテリー2組など、1年生が頑張っている。2年生が奮起してくれたら」と話した。中村直人主将は「我慢強くできなかった。2年生も負けられないので、春までにしっかり練習したい」と奮起を誓った。

投手がはまらず...

浜松南に4回に四球と集中打で8点を奪われ、1-11でコールド負けを喫した。栗飯原準監督は「投手ですね。はまってくれるとよかったです。決め球の何球かが外れると。我慢比べで我慢ができてなかった」と振り返った。1回戦水戸に8-7で競り勝つと、2、3回戦はコールド勝ちでベスト8に進出した。「全部鍛え上げないと、上では勝てない」と、出直しをする。



Table with 3 columns: Player Name, Team, and Statistics. Includes names like 八王子, 静岡梶野, 浜松南, etc.